

2025/10/24

検証報告

Orthofeet
KITA/YARI



検証項目・内容

【比較】 ①検証品 = KITA/YARI ②比較品 = 一般的なスニーカー

検証項目	検証内容	備考
1, アーチサポート	足部のレントゲンを撮影 画像上で第1中足骨、頭脛側種子骨下縁と踵骨隆起下端を結ぶ線分Y、 距舟・楔舟の各中点とYまでの距離のYに対する100分率を計測 比較：①検証品、②比較品	・n=3 30代女性1名、50代女性1名、60代男性1名 ・レントゲン撮影
2, 片脚立位	開眼片脚立位（目を開いた状態での片足立ち）を実施。30秒間片足立ちをし、その間の重心位置と、重心の軌跡長を比較し、バランス評価（軌跡長が短いほど安定性があると評価） 比較：①検証品、②比較品	・n=3 30代女性1名、50代女性1名、60代男性1名 ・歩行解析装置（Walkway）
3, 歩容	ウォークWay（株式会社アニマ https://anima.jp/ ）を使用したシート式下肢荷重検査、を実施。シート式下肢加重検査とは、下肢荷重を計測し、歩行時における時間・距離因子分析などを行う検査です。 比較：①検証品、②比較品	・n=3 30代女性1名、50代女性1名、60代男性1名 ・歩行解析装置（Walkway）

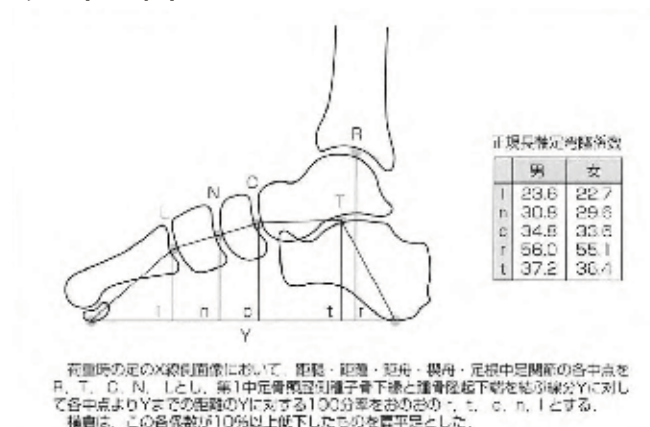
1,アーチサポート

【被験者】 n=3 （ 30代女性 1 名、50代女性 1 名、60代男性1名）

【比較】 ①検証品 ②比較品

【測定方法】

- 1, 足部のレントゲン撮影
- 2, 画像上で第1中足骨頭脛側種子骨下縁と踵骨隆起下端を結ぶ線分Y、距舟・楔舟の各中点とYまでの距離のYに対する100分率を計測
- 3, 検証品と比較品で角度を比較。



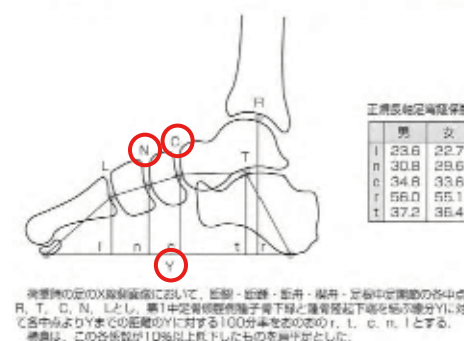
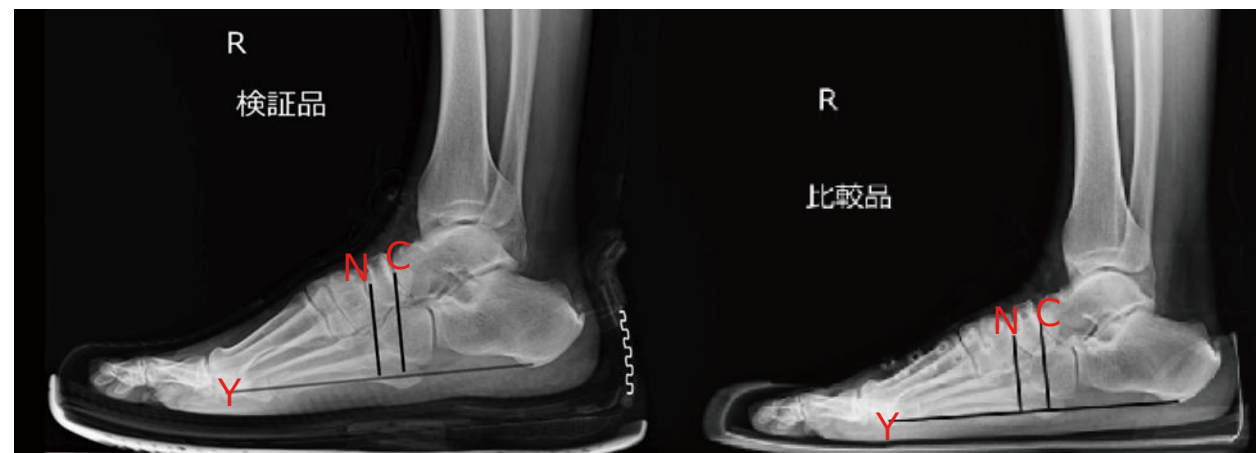
検証時の写真

1,アーチサポート

■ 横倉法 結果

比較品との差 C/Y 3.0% 上昇
N/Y 3.4% 上昇

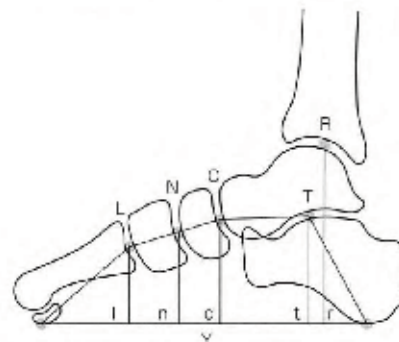
	検証品	比較品	差
C/Y	31.8%	28.8%	3.0%
N/Y	29.8%	26.4%	3.4%



1,アーチサポート

■ 横倉法 個別結果

被検者A	検証品		比較品	
	左	右	左	右
C/Y	32.4%	33.0%	28.4%	30.4%
N/Y	28.5%	28.2%	22.1%	25.8%
C	155.36	163	139.2	148.98
N	136.6	139.2	108.4	126.6
Y	479.0	494.1	490.32	490.1



正規横倉法測定係数

	男	女
l	23.8	22.7
n	30.8	29.3
c	34.8	33.6
r	56.0	55.1
t	37.2	36.4

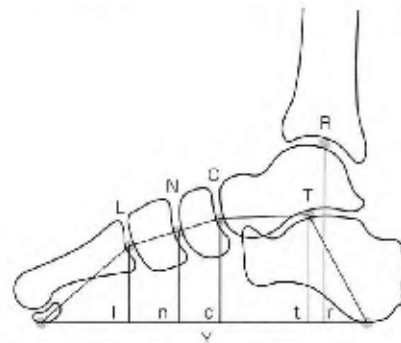
荷重時の足のX線側面像において、距脛・距踵・距舟・楔母・足根中足関節の各中点をR、T、C、N、Lとし、第1中足骨頭隆起種子骨下線と踵骨隆起下線を結ぶ線分Yに対して各中点よりYまでの距離のYに対する100分率をおののちr、t、c、n、lとする。
標準は、この各係数が100%以下したものを基準としていた。



1,アーチサポート

■ 横倉法 個別結果

被検者B	検証品		比較品	
	左	右	左	右
C/Y	31.9%	32.7%	31.1%	31.0%
N/Y	29.2%	30.1%	28.4%	27.7%
C	178.54	183.58	171.17	172.42
N	163.49	168.77	156.63	154.32
Y	560.07	561.43	551.18	556.36



正規横倉法測定係数

	男	女
l	23.8	22.7
n	30.8	29.3
c	34.8	33.6
r	56.0	55.1
t	37.2	36.4

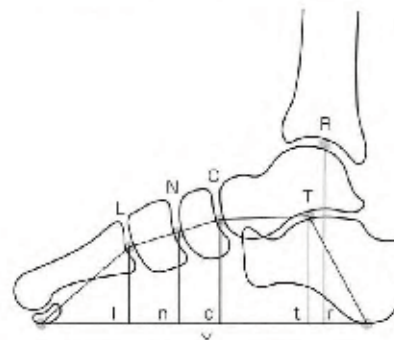
荷重時の足のX線側面像において、距踵・距踵・距舟・楔母・足根中足関節の各中点をR、T、C、N、Lとし、第1中足骨頭隆起と第2中足骨頭隆起下縁を結ぶ線分Yに対して各中点よりYまでの距離のYに対する100分率をおののr、t、c、n、lとする。
標準は、この各係数が100%以下したものを基準とした。



1,アーチサポート

■ 横倉法 個別結果

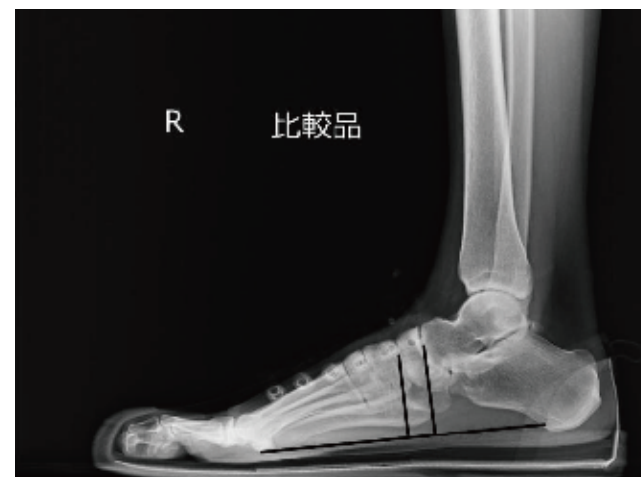
被検者C	検証品		比較品	
	左	右	左	右
C/Y (%)	29.5%	31.3%	27.2%	31.0%
N/Y (%)	27.8%	28.9%	25.8%	28.3%
C (ピケル)	137.67	147.12	130.25	142.12
N (ピケル)	129.93	136.07	123.91	129.87
Y (ピケル)	467.12	470.09	479.72	458.22



正規横倉法測定係数

	男	女
l	23.8	22.7
n	30.8	29.3
c	34.8	33.6
r	56.0	55.1
t	37.2	36.4

荷重時の足のX線側面像において、距踵・距踵・距舟・楔形・足根中足関節の各中点をR、T、C、N、Lとし、第1中足骨頭隆起種子骨下線と踵骨隆起下線を通る線分Yに対し、各中点よりYまでの距離のYに対する100分率をおののr、t、c、n、lとする。
標準は、この各係数が100%以下したものを扁平足とした。



2,片脚立位

【被験者】 n=3 （ 30代女性 1 名、50代女性 1 名、60代男性1名）

【比較】 ①検証品 ②比較品

【測定方法】

- 1, 検証品と比較品それぞれ装着し、30秒間片足立ちで保持。
- 2, 開眼片脚立位（目を開いた状態での片足立ち）を実施。
- 3, 重心位置と、重心の軌跡長を比較し、バランス評価（軌跡長が短いほど安定性があると評価）



検証時の写真

2,片脚立位

- 片脚立位の結果 比較品との差 ~~9.0%~~ 減少

軌跡長(cm)		差 (A-B)
検証品 (A)	722.7	71.7 (9.0%)
比較品 (B)	794.4	

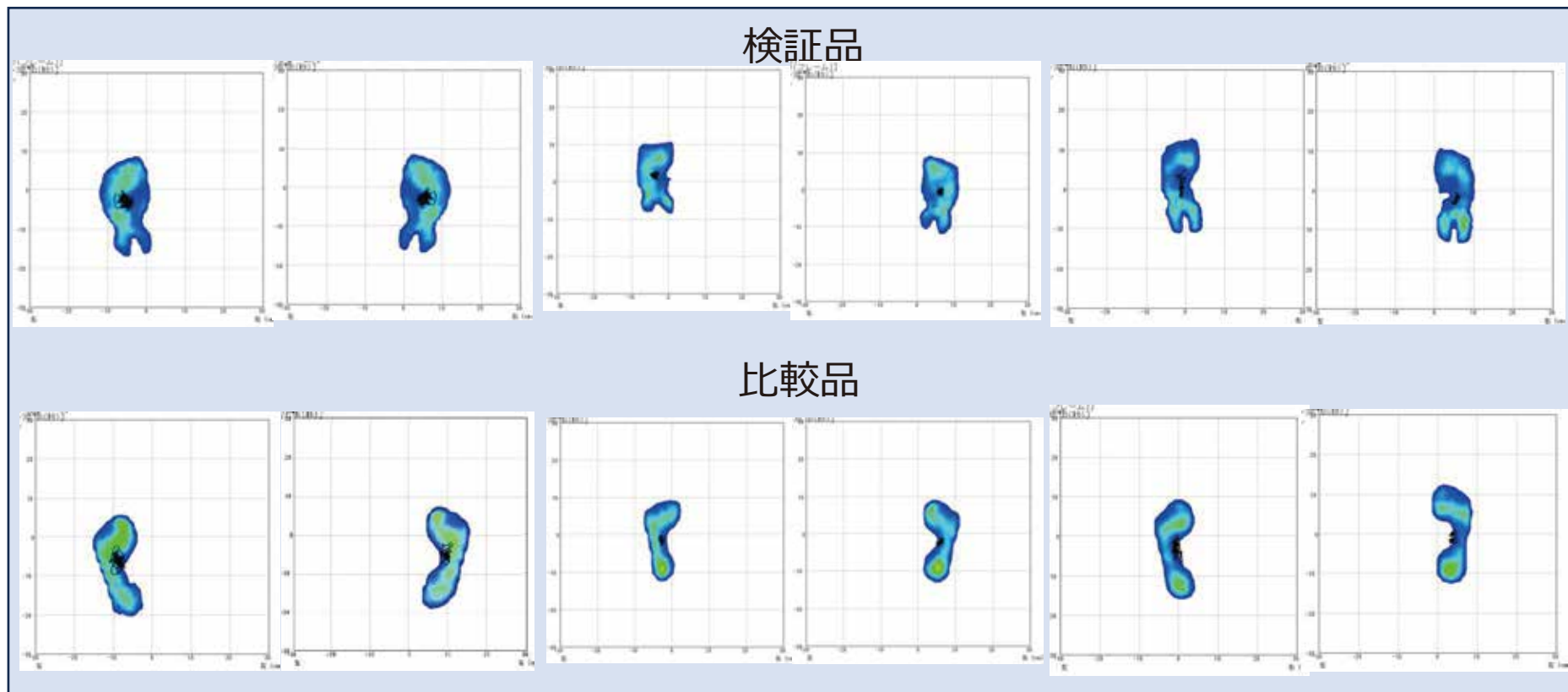
2,片脚立位

■ 個別結果

軌跡長		検証品 (cm)	比較品 (cm)
対象者A	左	196.1	172
	右	173	245.4
対象者B	左	100.3	98.7
	右	89.3	88.2
対象者C	左	90.1	107.3
	右	73.9	82.8

2,片脚立位

■ 個別結果



3,歩容

【被験者】 n=3 （ 30代女性 1 名、50代女性 1 名、60代男性1名）

【比較】 ①検証品 ②比較品

【測定方法】

- 1, 検証品と比較品それぞれ装着し、ウォークWay（株式会社アニマ <https://anima.jp/> ）を使用したシート式下肢荷重検査を実施。
シート式下肢加重検査とは、下肢荷重を計測し、歩行時における時間・距離因子分析などを行う検査。
- 2, 歩行を行いストライド、スピードを比較。



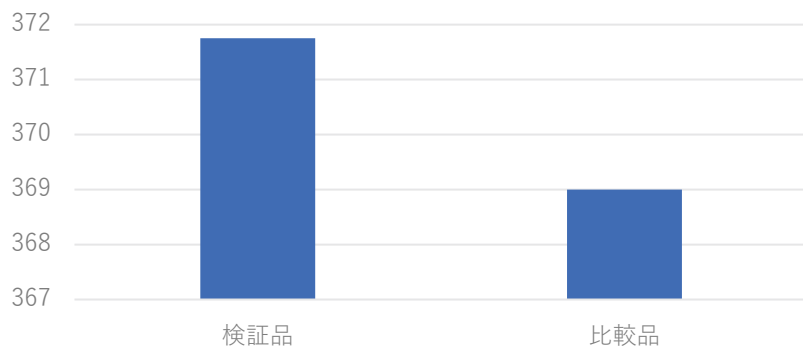
検証時の写真

3,歩容

■ 歩容の結果

比較品との差
ストライドが 0.7% 上昇

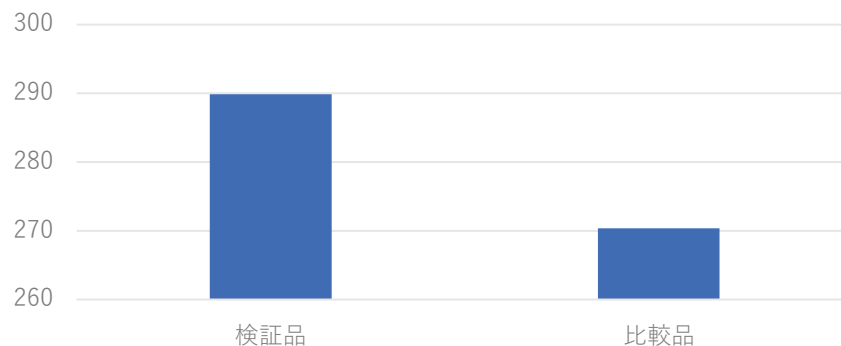
ストライド



	ストライド (cm)
検証品 (A)	371.75
比較品 (B)	369
差 (A-B)	2.75
上昇率 (A/B)	100.7%

歩行スピードが 7.2% 上昇

歩行スピード



	スピード (sec)
検証品 (A)	289.89
比較品 (B)	270.36
差 (A-B)	19.53
上昇率 (A/B)	107.2%

3,歩容

■ 個別結果

	検証品		比較品	
	ストライド(cm)	スピード (cm/sec)	ストライド(cm)	スピード (cm/sec)
被検者A	122.25	85.01	119.75	81.51
被検者B	115.0	92.23	116.25	81.85
被検者C	134.5	112.65	133.0	107.0

まとめ

本検証は、「KITA/YARI」が足部機能に明確なサポート効果を持つことを示唆しています。

- アーチサポート: レントゲン評価（横倉法）では、舟状骨や楔状骨の位置が上方へ改善する傾向を示し、アーチの支持機能が客観的に確認されました。
- 片脚立位バランス: 重心軌跡長が約9.0%短縮し、姿勢安定性が有意に向上したことが確認されました。
- 歩容: ストライド長および歩行スピードの向上が認められ、下肢機能の協調と効率的な歩行が促進された可能性が示唆されます。

久道 勝也医師コメント

「今回の検証では、KITA /YARIの靴が足の安定性と歩行の快適さを実際にサポートすることが確認されました。

レントゲン分析では、足のアーチを示す指標(C/Y・N/Y比)が平均で約3%上昇し、土踏まずの持ち上がりが確認されました。これは、足の疲れやすさの軽減に関する重要な要素です。

また、片脚立ちのテストでは、重心のブレを示す軌跡長が約9.0%短縮し、姿勢の安定性が向上しました。一般的な靴に比べて、片足での踏ん張りが効きやすく、立ち姿勢が安定しやすい結果といえます。

さらに、歩行解析ではストライドが0.7%、スピードが約7.2%向上しており自然に一步が伸びる傾向が確認されました。これにより、長時間歩行時の体の負担が減り、効率的な歩行パターンが実現されと考えられます。

これらの結果から、KITA/YARIは「快適さ」と「足の安定性」を両立する設計であることが示唆されます。特にアーチサポートの高さとクッション性のバランスが、日常生活で使いやすくかつ快適な歩行に寄与する靴として、足の健康維持に貢献できる可能性があります。